

## 「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

むずかしい技能検定の合格者も。  
目標が生まれ、生徒のやる気も向上。

手仕事は生徒たちの目の前で実際にやって見せることで、格段に理解が深まると思います。しかし私たちは基本的な知識や理論を教えることはできても、それを実践して示せないという「もどかしさ」がありました。ものづくりマイスターの実技指導は、そういった自分たちにできない部分を補ってくれます。そしてそれを体験することで、生徒たちのみならず教員もレベルアップしていただけるにもメリットがあります。昨年からマイスターによる指導が始まり、これまでに受講をした3年生6名のうち、建築大工職種2級の検定に3名、3級の検定に3名の全員が合格しました。特に2級については合格率が低い中で「学校創立以来の快挙」として新聞報道されたほど。その実績を受け検定受験を希望する生徒も一気に増え、目に見える効果も現れています。目標ができたことで、生徒たちに前向きに取り組む気持ちが生まれたことも大きな収穫ですね。



青森県立弘前工業高等学校  
教諭 蒔苗俊規さん

## ■ 実施したカリキュラム

## 指導の概要

実施回数：9回 受講者数：建築科35名  
実施場所：青森県立弘前工業高等学校



## ■ プログラム内容

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1回目 建築大工の基礎知識     | 6回目 木材加工の演習1 |
| 2回目 カンナの扱い方       | 7回目 木材加工の演習2 |
| 3回目 木材の見分け方と墨付け   | 8回目 木材加工の演習3 |
| 4回目 のこぎりの扱い方と墨付け1 | 9回目 木材加工の演習4 |
| 5回目 のこぎりの扱い方と墨付け2 |              |



## ■ 教育プログラムの解説

木造の建築物を建造する「建築大工」は、設計から施工まで家づくりの様々な工程に関与します。教育プログラムでは、まず木工パズルを製作するなど、ものづくりの楽しさを味わうところからスタート。そして建築大工の基礎である、墨付け、ノコギリの引き方、カンナの削り方等について実演を交えた指導を実施し、最終的には継ぎ手加工にも取り組みます。

木の温もりや質感を生かし、  
日本の伝統的な木造建築を支える。

青森県立弘前工業高等学校は、明治43年に県内初の「青森県立工業学校」として開設された伝統校。工業に関する基礎知識の習得と科学技術の体得により工業人としての「スペシャリスト」を育成しています。同校では1年前からマイスター制度を導入。受講生の技能の向上とともに、多数の技能検定合格者を出すなど大きな成果をあげています。

## ■ ものづくりマイスター派遣先学校

## ■ 青森県立弘前工業高等学校

所在地	森県弘前市馬屋町6-2	設立年	明治43年
学科	建築科、土木科、電気科、 情報技術科、インテリア科、 機械科、電子科	学校長	赤井茂樹
		在校生数	733名



座談会  
INTERVIEW

ものづくりマスター × 受講生  
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真\_右から2番目)

越山 成憲さん

昭和26年生まれ  
昭和52年度 1級技能士「建築大工(大工工事作業)」取得  
平成28年度 厚生労働省ものづくりマスター「建築大工」認定

民間企業での実務経験と、公共の職業能力開発施設で37年間指導を行った経験を生かし、建築大工技能の基本に忠実にわかりやすい指導に取り組む。

受講した生徒 (写真\_左)

桜庭 大心さん | 建築科1年生

大工の祖父の背中を見て育ったので、いつかその仕事を継ぎたい。

受講した生徒 (写真\_左から2番目)

桜庭 光大さん | 建築科1年生

夢は建築士。自分の家を自分で好きなように建てられたら最高!

受講した生徒 (写真\_右)

齋藤 璃子さん | 建築科1年生

ものづくりが好き。将来は大工さんの気持ちが分かる設計士を目指したい。



僕らは、夢を建築する。  
確かな技能で理想をカタチに。

職人の技に触れる、  
貴重な体験が糧になる。

越山さん カリキュラムでは、できるだけ誰にでも理解できるように建築大工技能における基礎的なものを繰り返しやってもらいました。みんなけっこう一生懸命に取り組んでくれたよね。



桜庭(光)さん 実際にやって見せてもらったのが良かった。何度も繰り返し見せてもらったので分らなかったことも理解できました。ものづくりマスターって、そう簡単になれるものじゃないと思うので、そういう人から学べるのはすごく貴重な体験でした。

齋藤さん 木を切るとき、越山マスターは早い。断面もポコポコしてなくてきれい。構造材を結合させるための「ホゾ穴」を開けるのも私たちと違って、一打

が大きいんです。やっぱりマスターの技ってすごいなあと。

桜庭(大)さん 力の入れ方とか指導の一つひとつがすごく具体的で、将来の自分が使える技能を全部教えてもらっている。ここで基礎的なことを学んで、もっと上のレベルのものを習得して行きたいと思いました。

新しい知識を得て、  
成長するきっかけに。

越山さん カンナ削りはみんなはじめてだったよね。実は、カンナくずの薄さは髪の毛よりも薄い約30~40ミクロン。実技指導で新しい知識を得たり、実際の体験を通して成長できたという実感はありますか？

桜庭(大)さん 僕が個人的に苦手だったのはノコギリ。だけど越山マスターにわかりやすく教えてもらったので、ちょっとは上達できたのかな？小学校の工作でノコギリを使ったときは比べものにならないぐらい上手になったんですけど(笑)。

桜庭(光)さん 新しい工具のことをもっと知って、使い方を覚えていきたい。徹底的にやりこんで、速くていいに、

正確な仕事ができるようなところを目指してがんばりたいですね。自分自身、いまは速いことには速いのですが、ぜんぜん正確じゃなくて結構ずれてる(笑)。

齋藤さん わたし、実技指導で学ぶようになってから、街を歩いているとき建設中の家があれば思わず見ちゃいます。自分の習っているところが、どんな風になっているんだろうって気になります!



将来の希望に向かって、  
ものづくりで夢を叶える。

桜庭(大)さん 大工の祖父の背中を小さいころから見てきたので、いつかその仕事を継げたらと思っています。祖父から教えてもらったことと、越山マスターから教えてもらったことを合わせて、いろいろなことに挑戦していけたらいいな。

齋藤さん 将来は設計のほうに行きたいですね。だけど、施工もちゃんと学んでおかないと大工さんの気持ちがわからないから、施工にも詳しくなりたい。「こういうのが欲しいな」と思ったときに、自分で木工作业をして何でもつくれるようになったらいいなと思います。

桜庭(光)さん 僕の夢は建築士になって自分の家を建てること。家の間取り

のなかだと「ロフト」が好きなので、理想のロフトを造りたい。自分の家を、自分で好きなように建てられたら最高ですね。

越山さん みんなには取り組む意欲が

あるし、目標があって素晴らしいと思いました。どういう進路があるか、声をかけてくれれば相談に乗るよ。だから、これからがんばってください。

